



花粉症の季節です

花粉症という言葉をよく耳にする季節になりました。そもそも、花粉症とは、さまざまな植物の花粉が鼻や目から入ることによって、くしゃみ・鼻水・鼻づまり・目のかゆみ・涙が出るなどのアレルギー症状を起す病気です。特に、冬から春にかけて花粉が飛んで、症状が強く、患者さんも多い、スギ花粉症が有名です。

今年は花粉が少なそう

花粉を飛ばすのは雄花で、花粉薬の中には、約3、300個の花粉があります。考えるだけでくしゃみが出そうです。雄花は7月ごろから作られますが、この時期によく晴れて、お日さまの当たる量が多いと雄花がたくさんできます。つまり、前の年

花粉症ってなに？

市立病院院長（耳鼻いんこう科）

北西 剛

の7月の天気によれば、その次の年には、飛散量が多くなるというわけです。

昨年平成15年の夏は、全国的に雨が多く、気温も低くなりました。これらの条件と、スギの木の状態から、今年の花粉の飛散量は、滋賀県を含めて全国的に過去の平均より少なくなりそうです。

突然症状が出ることも

花粉症は、ある年から症状が出ることもあるので、今まで大丈夫だった人も注意が必要です。花粉症の対策としては、何といたっても花粉を避けることです。花粉は、天気が良い日、風の強い日、雨の日の翌日で晴れた日などに多く飛びます。花粉情報をまめにチェックし、晴れて花粉がよく飛ぶような日の外出は避け、外出時にはマスク・メガネ・帽子を着用しましょう。外出から帰ったら、花粉を家の中に持ち込まないように、玄関で衣服や髪についた花粉をしっかりとらひ落とし、うがい・洗

眼・鼻かみをしましょう。掃除は、花粉の少ない朝の時間に行い、洗濯物や布団を屋外に干すのは避けましょう。最近では、後ろから排気が出ない掃除機もあるので、検討してみてください。

油断せずに、早めの治療を

毎年この時期に症状が出る人は、早めに病院に行って、治療を受けることをお勧めします。診てもらったのは、やはり鼻の症状が強いので、耳鼻咽喉科になります。特に花粉が飛び始める2週間ほど前から、お薬を飲むのが効果的です。花粉症の薬は眠くなるかと思っておられる人も多いようですが、最近では眠くならない薬もありますので、ぜひ試してみてください。

また「風邪が治りにくい」「いつもは花粉症なんてかからないのに」という人も花粉症の場合があります。耳鼻科の先生に相談してみてください。さらにもう一つ。近ごろは、鼻にレーザー光線をあてて、症状を軽くする治療を行う病院も増えてきています。あまり痛みはなく、日帰りでできるので、これも耳鼻科の先生にたずねてみてください。今年には花粉が少ないからと気を抜かず、しっかりと予防治療しましょう。

今回のテーマは

「乳がん予防について」

鳥インフルエンザについて

鳥類のインフルエンザは、「鳥インフルエンザ」と呼ばれ、感染した鳥類が死亡すると言われています。

鳥インフルエンザウイルスは、人のインフルエンザウイルスとは異なったウイルスで、これまでのところ、香港など生きたニワトリの小売りが一般的な地域や、防疫業務に携わった人の感染事例など、病鳥と近距離で接触した場合、または鳥の内臓や排せつ物に接触した場合に、まれにトリから人への感染が見られるだけです。鶏肉や鶏卵からの感染の報告はありません。

鳥インフルエンザが鶏やアヒルのほかにもいろいろな鳥に感染することが知られていますが、国内でこれまでペットとして家庭で飼育していた鳥が、直ちに危険になるとい

うことはありません。

通常の生活のなかで、現段階で鳥インフルエンザウイルスに関する特別な予防を行う必要はありません。鳥や動物は、人とは異なるウイルスも、人と共通のウイルスも保有することが知られています。人間も鳥もインフルエンザの予防は同じです。鳥に限らず動物を飼う場合は、動物に触った後は手を洗うこと、糞尿は速やかに処理して、清潔な環境にすることなどが大切です。

鳥インフルエンザに関する問い合わせ先

- ▶ 鳥の病気に関する問い合わせ 園家畜保健衛生所 ☎0748-37-7511、園農政課 ☎22-1411（内線317） FAX22-1398
- ▶ 人の健康に関する問い合わせ 園彦根保健所 ☎22-1770、園健康管理課 ☎24-0816、FAX24-5870